

令和4年度 第56回 中学生の「税についての作文」

まちだ納税貯蓄組合連合会会長賞

『命を守る税金』

町田市立小山中学校 3学年 花田 小春

私は、小さい頃から肌が弱く、月に一回ほど病院に通っている。病院へ行かない人はあまり知らないかもしれないが、子供は診察して薬を出してもらっても毎回二百円程度でもとても安い。私にとってそれは日常だったので、安いなとは思っていなかった。

ある日、私と一緒に母も診察してもらったことになった。いつも通り診察してもらってお金を払う時、受付の人が、「千二百円です。」と言った。私はとても驚いた。大人と子供でなぜこれほどまで料金が違うのか。どうしても大人が高いのか。私は疑問に思い、母に聞いた。母はこう答えてくれた。「子供は安いのに、大人料金は高すぎる、と思ったのね。でも、大人でも千円位というのは、とても安いよ。外国へ行ったらもっともお金がかかるの。高すぎて病院へ行けない人が世界には沢山いる。日本では、私達が払っている税金が医療のために使われているから、安く、そして気軽に診察を受けることができるの。それは私達にとって、とてもありがたいことなのよ。」

当時小学四年生頃だった私にとって、この話は難しく、興味がなくなってしまったので、その時のことはすっかり忘れていた。

中学三年生の夏休み、私はまた病院へ行った。受付の人が診察料

金は二百円だと言うのを聞いて、あの時と同じ疑問が私の頭に浮かび、母の話を思い出した。

日本の医療費は本当に安いのだろうか。家に帰って調べてみると、同じ治療でも外国では日本の十倍ほどお金がかかることもあることが分かり、私は驚いた。

私達が気軽に病院へ行こうと思えるのは、私達が払っている税金が、国民全員のための健康のために使われているからだと思う。私が今まで安い料金で何度も病院に行って、元気に暮らしてこられたのは、沢山の大人が払ってきたくれた税金があるからなのだ。

この経験を通して、私は医療関係の仕事に興味を持つようになった。今までは全く関心がなかったが、私達が元気に暮らしていくために毎日働いている医師の方々がとても格好良い存在に思えた。私達が払っている税金と、一生懸命働いている医師をはじめとする医療関係の方々が、今日も誰かの命を救っているのかもしれない。そう思うと、今まで払う意味を見出せなかった税金が、大切なものだと感じられた。

新型コロナウイルスが流行している中、医療関係者は日々奮闘している。未知のウイルスに立ち向かい、感染した人々を日々助けている方々のおかげで、私達はコロナ禍でも生活できているのだ。

私が大人になった時、今度は私が一生懸命働いて、税を納め、国民全員が気軽に病院へ行ける、そんな社会を作り上げていく一員として、立派な医師になりたい。